

「朝の辻立ち」10周年

7月1日、朝7時、「朝の辻立ち」10周年を記念して祝島をはじめ、上関町、平生町、田布施町、柳井市、光市、宇部市など県下各地から50数名が駆け付けました。国道188号線ジョイフル平生店前交差点に「子どもたちの為、故郷を守る為、上関原発はいらない」などの幟旗が林立するなか、小中さんは「辻立ちを開始したのが10年前の7月1日、雨の日も風の日も立ち続け、今日3222回を迎えた。辻立ち当初は罵声を浴びせられることもあった。しかし立ち続けることで、手を振ったり、頑張ってくださいといった声が大人や小さな子どもたちまでが声かけしてくれるようになった。上関原発に対する世論は確実に高まっている。希望を持てることができた。」と10年間を振り返りました。各地からも行動を起して行く日にしたいとアピールが続きました。

その後、上関原発予定地周辺7か所で街頭演説を行いました。手を振る人、拍手を送る人、そして周防大島町ではマイクにじっと耳を傾け、飲み物やカンパを届ける方がおられました。スーパーや駅前では上関町周辺の2市4町の市議員の方々も真剣にアピールされ、原発反対の運動が着実に前進していることを示しました。

プロフィール

小中進さん

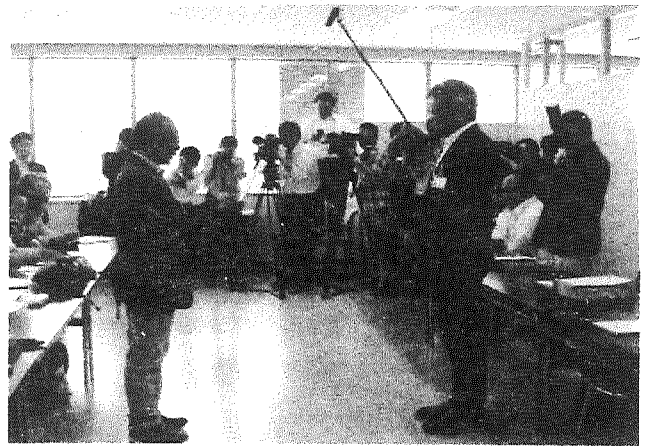
1948年2月24日生まれ

田布施町議3期、山口県議1期、

新自由クラブ山口県幹事長

(現) 上関原発建設に反対する2市4町連盟幹事長

(現) 原発いらん！山口ネットワーク代表



申し入れを読み上げる清水代表

県知事に申し入れ

-上関・田ノ浦の埋立て免許延長許可の撤回-

去る5月15日、上関原発を建てさせない山口県民連絡会(共同代表・清水敏保 上関原発を建てさせない祝島島民の会代表)参加者22名は、県庁において県知事宛の「上関原発計画予定地の公有水面埋立て免許延長許可の撤回を求める申し入れ」を行いました。

申し入れ事項は次の通りです。

1. 公有水面埋立て免許延長許可を撤回し、許可申請を不許可とすること。

これに対する県側の対応は、① 公有水面埋立て法に基づいて適性に審査して、出した結果であって取り消しは考えていない。② 県民の中に原発に反対する声があることは、承知しているが上関町の政策の選択を尊重してやっていることが基本姿勢であって、これからもやっていく。などの回答に終始しました。

代表の清水さんは、上関に原発が持ちこまれ住民同士が対立。36年間、生殺し状態になっている。原発は福島原発事故以降、難しい危ないものとなっている。

しかし、県、国、中電は諦めていない。県が埋立ての許可を出すから生殺しが更に続くと、強い怒りを表しました。他の参加者からは、「未だに上関だけが地元という考えなのか。」「知事は県民に責任をもて！」など怒りの声があがりました。